

カラマツ伐採現場における A ~ D材の出現割合()

- 列状間伐地と定性間伐地における重量割合の事例 -

1 はじめに

FIT制度の施行以降、燃料用木材の需要が急増しており、建築用材も含めた新たな木材供給システムの確立が必要である。

今回、木材供給の基礎資料を得る目的で、カラマツ間伐地においてA材～D材の出現割合を調査したので報告する。

なお、本調査は、ノースジャパン素材流通協同組合およびふるさと木材(田野畑村)の全面的な協力の下、実施した。

2 方法

(1)調査地と調査木

岩泉町門地内にあるカラマツ間伐地(林齢：40～44年、施工面積：4.07ha)で調査を行った。

列状間伐と定性間伐の伐採地で計28本の立木を調査木とした(表1)。伐木造材はハーベスタおよびチェーンソーを用い、同事業体が通常行う方法で、A～D材に造材した(表2)。

(2)重量測定(写真)

造材後、材種別にクレーンスケールで重量を測定した。

表1 供試木の平均直径と平均樹高

間伐方法	N	胸高直径(cm)	樹高(m)
列状間伐	13	29.1(±8.6)	25.5(±4.4)
定性間伐	15	27.3(±4.2)	24.6(±2.4)
全体	28	28.2(±6.6)	25.0(±3.4)

()は標準偏差



【B材測定】



【D材測定】

写真 重量測定の様子

3 結果

(1)A～D材の出現割合(重量ベース)(表3)

A～D材の出現割合の平均値は、A材が61.2%、C材が19.1%、D材(ドンコロと枝条)で19.7%であった。

(2)径級と燃料用材出現割合の関係(図)

胸高直径と燃料用材(C材・D材)出現割合は、負の相関関係を示し、径級が大きいほど、燃料用材の出現割合は減少した。また、径級のバラツキは、定性間伐より列状間伐で大きく、伐採木の選木方法により、出材割合が変化することが確認できた。

4 成果と今後の進め方

カラマツ間伐地におけるA～D材の重量ベースによる出現割合事例を示した。

今後は、材積や密度割合、また、伐採現場における作業効率等について報告する予定である。

表2 A～D材の概要

	長さ	末口径	その他
A材	4m	16～36cm	直材
B材	2m	13～30cm	直材
C材	2m	6～30cm	曲がり材
D材	-	-	ドンコロ、枝条

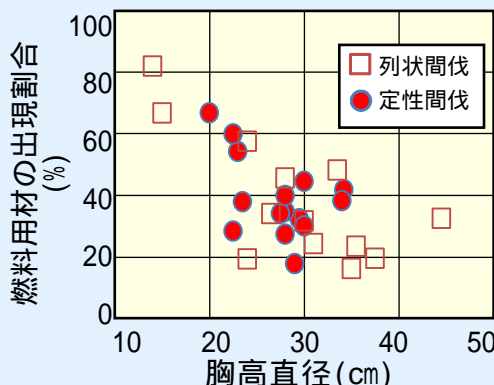


図 胸高直径と燃料用材の出現割合の関係
燃料用材...C材・D材(ドンコロ・枝条)

表3 列状間伐、定性間伐地におけるA～D材の平均出現割合(重量ベース) 単位:%、()は標準偏差

	総重量(kg)	A材	B材	C材	D材(ドンコロ)	D材(枝条)
列状間伐	771.9(±432.9)	25.0(±25.8)	36.5(±19.8)	17.4(±20.5)	3.5(±2.1)	17.6(±5.2)
定性間伐	646.7(±208.4)	11.5(±20.2)	49.3(±17.7)	20.6(±15.5)	4.3(±4.4)	14.4(±4.4)
全体	704.8(±331.4)	17.8(±23.5)	43.4(±19.5)	19.1(±17.7)	3.9(±3.5)	15.8(±5.0)

(担当者：研究部・研究部長・玉山俊彦、主任専研・後藤幸広、企画総務部・主任専研・大橋一雄)

連絡先

028-3623 岩手県紫波郡矢巾町大字煙山第3地割560番地11

岩手県林業技術センター

ホームページアドレス：<http://www2.pref.iwate.jp/^hp1017/>

TEL 019-697-1536

FAX 019-697-1410